



©Ryusei Kojima



©Taira Tairadate



©Hannes Heinzer



©Sotaro Goto

伊藤悠貴、笹沼樹、新倉瞳、横坂源

齋藤秀雄メモリアル基金賞 受賞者によるチェロ・アンサンブル

2025年3月15日 [土] 18:00開演 (17:30開場)

東京文化会館 小ホール

(〒110-8716 東京都台東区上野公園5-45)

料金(税込) 全席指定 ¥4,500 / U-25 ¥2,000

<当日券の取扱いについて> 残席があり会場にて当日券を販売する際、料金は各券種+500円となります。
オンライン・チケットサービス等で事前のご予約をお勧めいたします。

演奏曲目 ※すべての曲目をチェロ四重奏にて演奏いたします。

- | | | |
|-------------------|---------------------------|-----------|
| ・ハイドン(D.ムーア編) | チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb:1 | [ソロ：笹沼 樹] |
| ・サン=サーンス (R.クレム編) | チェロ協奏曲 第1番 イ短調 op.33 | [ソロ：伊藤悠貴] |
| ・ハイドン(D.ムーア編) | チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Hob.VIIb:2 | [ソロ：新倉 瞳] |
| ・エルガー(W.S.ヤン編) | チェロ協奏曲 ホ短調 op.85 | [ソロ：横坂 源] |

主催：東京・春・音楽祭実行委員会 / 公益財団法人ソニー音楽財団 (Sony Music Foundation)

- 未就学児のご入場はお断りいたします。
- ご鑑賞の際、車椅子をご利用のお客様はチケットご予約前に東京・春・音楽祭サポートデスク (050-3496-0202) までお問合せください。
- 企業・学校団体での鑑賞をご希望の方は専用フォームよりお問合せください。
- 公演内容を変更、または公演を中止する可能性があります。最新情報を音楽祭公式サイトやSNSにてご確認ください。公演中止以外の理由での払戻しはいたしません。
- チケット代金のお支払い後、お客様の事情による変更・キャンセルは承りません。
- 営利目的のチケットの転売は固くお断りします。不正転売されたチケットではご入場いただけず、金銭的な保証は一切ございません。正規の方法以外で購入したチケットのトラブルに関して、当実行委員会はいかなる責任も負いません。
- 会場では写真及び動画による撮影・収録を行います。ロビーや客席の様子が一部映り込む場合がございます。予めご了承ください。

伊藤悠貴

Yuki Ito

(第17回 2018年度受賞)

15歳で渡英。18歳で初のリサイタル・ツアーをクアロアチアで行う。2010年ブラームス国際コンクール第1位。2011年ウィンザー祝祭国際弦楽コンクール第1位。同年、フィルハーモニア管弦楽団との共演でメジャー・デビュー。2018年ウィグモア・ホールにリサイタル・デビュー。幅広いレパートリーの中核にラフマニノフ研究を据え、2012年にワールドワイド・デビュー盤『ラフマニノフ：チェロ作品全集』、2023年には学術単行本『ラフマニノフ考』を刊行。生誕150年記念リサイタルでは、世界初の試みとしてラフマニノフが愛用したピアノを共演に用いた。2024年、世界的作曲家ヨハン・デ・メイより献呈を受けた作品を含む、初の協奏曲アルバムをMo.デ・メイ指揮のもとリリース予定。また指揮者として、ロンドンで創設したナイツブリッジ管弦楽団の音楽監督を3年間務めた他、2016年には対アンゴラ外交関係樹立40周年記念事業においてカメラータ・ルアンダを指揮し、アフリカのオーケストラ史上初となる日本ツアーを成功に導いた。英国王立音楽大学、スロヴェニア・リュブリャナ音楽院のマスタークラス講師、パリFLAME音楽コンクール審査員も務める。作曲作品に石川啄木の詩による歌曲『春の雪』。使用楽器は日本ヴァイオリンより貸与の1734年製ゴフリヤー。2019年齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

笹沼 樹

Tatsuki Sasanuma

(第20回 2021年度受賞)

学習院大学文学部卒業後、桐朋学園大学院修了。現在はバリ・エコールノルマル音楽院エリートコースを修了し、ベルギー・エリザベト王妃音楽大学アーティスト・イン・レジデンス在籍。ヴァーツラフ・アダミール、堤剛、古川展生、アンリ・デュマルケットの各氏、室内楽を磯村和英、大山平一郎、山崎伸子、ジェロム・ベルノー各氏らに師事。東響、都響、新日本フィル、スロヴァキア・フィル等の国内外のオーケストラと共演。2011年第65回全日本学生音楽コンクール第1位、霧島国際音楽祭賞並びに音楽監督賞、第22回ホテルオークラ音楽賞、2021年度齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞など受賞多数。室内楽奏者としては、M.アルゲリッチ、ダン・タイ・ソン、M.ヴェンゲーロフ、J.ヴィトマンといった世界的アーティストと国内外で共演し、室内楽奏者としても活躍の幅を広げる。ミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位入賞及び特別賞(2016年)。ヴァーツラフ・アダミール、堤剛、古川展生の各氏らに師事。室内楽を磯村和英、大山平一郎、山崎伸子らに師事。東京交響楽団客演首席チェロ奏者。宗次コレクションより1771年製C.F.Landorfiを貸与されている。

新倉 瞳

Hitomi Niikura

(第19回 2020年度受賞)

幼少期をアメリカとドイツで過ごし、8歳よりドイツでチェロを始める。桐朋学園女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業。卒業時には皇居桃華楽堂新人演奏会に出演、御前演奏を行う。その後、バーゼル音楽院ソリストコース・教職課程の両修士課程を最高点で修了。これまでにJan Vymyslicky、毛利伯郎、堤剛、Thomas Demenga、Martin Zaller (パロック・チェロ)の各氏に師事。室内楽を徳永二男、原田幸一郎の各氏に師事。2003年いしかわミュージックアカデミーにてIMA音楽賞を受賞し、アメリカ/アスペン音楽祭に奨学生として参加。2007年第28回霧島国際音楽祭にて霧島国際音楽祭賞を受賞。2009年ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門にて第1位を受賞。2015年スイスのベルンで開催されたOrpheus Kammermusikwettbewerbにて入賞。同年、ホルトガルのリスボンで開催されたInternacional Verão Clássico 2015チェロ部門にて第1位を受賞。2016年5月スイス/ルツェルンの高級時計ブランド「カール F. ブヘラ」よりPathos Woman Awardを受賞。2017年第18回ホテルオークラ音楽賞受賞。第19回(2020年度)齋藤秀雄メモリアル基金賞チェロ部門受賞。2006年8月桐朋学園大学在学中には、EMI Music Japan (現ユニバーサル・ミュージック)より『鳥の歌』をリリースし、紀尾井ホールにてデビュー。これまでにEMI Music Japanから3枚のアルバム、Live Notesよりピアニスト佐藤卓史とのライブCD『ブラームス&ラフマニノフ：チェロ・ソナタ』、F.S.L.レーベルよりアコーディオニスト佐藤芳明とのDuo『魂柱と鞆』、ヴァイオリニスト原田陽が加わったTrio Baroccoでのパロック・ヴァイオリン、パロック・チェロ、アコーディオンでの『ゴルトベルク変奏曲』、アールアンフィニ・レーベルより、『11月の夜想曲～委嘱作品』(世界初演/世界初録音)やピアニスト高橋多佳子、ヴァイオリニスト磯絵里子との『椿三重奏団』を含む5枚のアルバムが発売されている。また、チューリッヒを拠点とする人気クレズマーバンドCheibe Balaganのメンバーとして2014年から参加し、ダボス音楽祭、サン・モリッツ音楽祭、モントルー音楽祭をはじめ様々な音楽祭に招かれ、クレズマー音楽のワークショップも積極的にに行い、音楽の幅を広げている。現在はカメラータ・チューリッヒのソロ首席チェリストとしてスイスを拠点に活躍する中、ソリスト・室内楽奏者として全国各地でリサイタル、オーケストラとの共演を重ね、司会、番組ナレーション、音楽劇、演奏家のためのドレス「M Maglie le cassetto」のプロデュース等、活動の幅を広げ音楽の素晴らしさを広く深く伝えようとする姿勢は多くの共感を集めている。使用楽器は、宗次コレクションよりMatteo Goffriller (1710年製)を貸与されている。
<https://www.hitominiikura.com>

横坂 源

Gen Yokosaka

(第7回 2008年度受賞)

新潟市出身。2002年7月、チェリストの登竜門として知られる全日本ビバホール・チェロコンクールでの最年少優勝(15歳)をはじめ、2005年に第15回出光音楽賞を、2008年に第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。2009年5月には全ドイツ学生音楽コンクールで第1位(室内楽)を、2010年9月には第59回ミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門で第2位を受賞し、国際的なチェリストとしてのキャリアを本格化させる。1999年10月、13歳で東京交響楽団とサン＝サーンスのチェロ協奏曲を共演したのを皮切りに、日本フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、バイエルン放送交響楽団ほか、小澤征爾、岩城宏之、秋山和慶、小林研一郎、大友直人、尾高忠明、広上淳一、山下一史、梅田敏明、渡辺一正、山田和樹、クリストフ・ボッペン各氏等と共演し、好評を博す。豊かな音楽性やイマジネーションが卓抜したテクニックで表現され、「力強く、豊かで、円熟した音色、そして高い集中力と、何よりも情熱的で生き生きとした演奏」(ハレル・タグプロット)など、各誌で絶賛されている。桐朋学園女子高等学校(男女共学)を卒業後、ソリストディプロマ・コースを経て、シュトゥットガルト国立音楽大学、並びにフライブルク国立音楽大学で研鑽を積む。鷲尾勝郎、毛利伯郎、ジャン＝ギアン・ケラスの各氏に師事。ピエール・ブーレーズが指揮するルツェルンフェスティバル・アカデミーに18歳で参加して以来、現代音楽にも積極的に取り組んでいる。録音では、2016年に『J.S.バッハ：ガンバ・ソナタ集(ピアノ：藤井一興)』、2020年12月には『シューマン&メンデルスゾーン(ピアノ：加藤洋之)』をリリースし、レコード芸術誌で特選盤に選ばれた。これまでに、テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK「クラシック倶楽部」、「FM名曲リサイタル」等、メディアにも出演多数。現在最も幅広い演奏活動を展開するチェリストの一人である。

齋藤秀雄メモリアル基金賞とは

財団法人ソニー音楽芸術振興会(現・公益財団法人ソニー音楽財団/英文名称: Sony Music Foundation)は、2002年(平成14年)に「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を創設しました。この「齋藤秀雄メモリアル基金賞」はチェリスト・指揮者・教育者として高名な故・齋藤秀雄(1902-1974)氏に因むものです。2000年3月17日に齋藤秀雄氏未亡人・齋藤秀子氏が90歳で逝去されました。齋藤秀子氏の遺言公正証書第1条に「財団法人ソニー音楽芸術振興会は、遺贈された財産で振興会の中に『齋藤秀雄メモリアル基金(仮称)』を設け、この基金により若手チェリスト、指揮者の発掘、育成を目的とした顕彰制度を実施して下さい。」と記載がありました。齋藤秀子氏から十数年前、同家の資産運用の相談を受けた当時の財団理事長・大賀典雄が同家の資産を買取った経緯があり、齋藤秀子氏の遺言に上記の文章が入ったものと思われま。齋藤秀子氏の遺言執行者である中央三井信託銀行から当財団に、306,483,968円の遺贈金が寄せられました。当財団理事会、評議員会で審議の上、齋藤秀子氏の生前の希望により、大賀が小澤澤爾氏(指揮者)、堤剛氏(チェリスト)とも協議した結果、この遺贈金は「齋藤秀雄メモリアル基金」として運用することになりました。この基金の利息収入により2002年度(平成14年度)から毎年度「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を授与することが決定しました。2021年度より小澤澤爾氏が名誉顧問に就任するとともに、以後選考委員長に当財団理事長が就任することとし、受賞者を選定の上、理事会において決定することといたしました。2024年2月6日の小澤澤爾名誉顧問が逝去されたことに伴い、2024年度より永世名誉顧問の称号を授与いたしました。